

110th
Memorial

N I K A

Painting Sculpture

会 員

sculpture

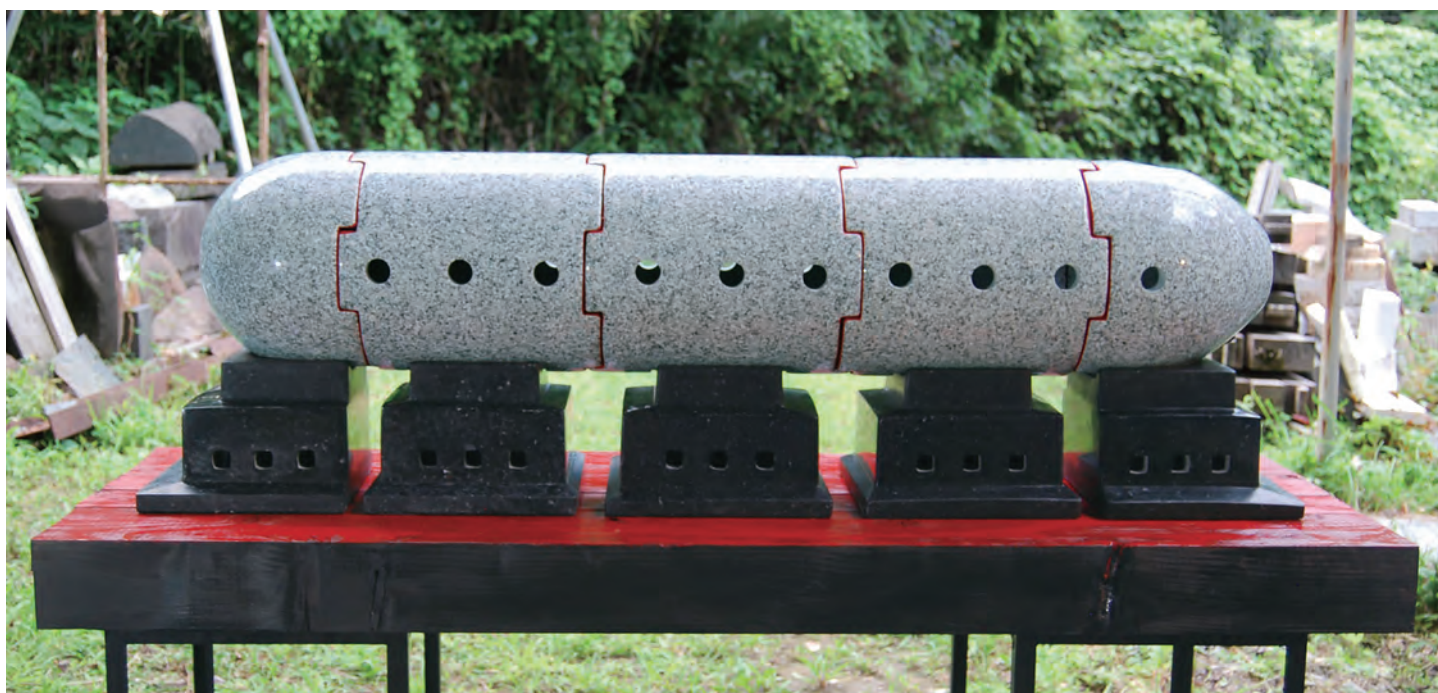
彫 刻



魁 H105×W70×D26 ブロンズ 吉野 毅



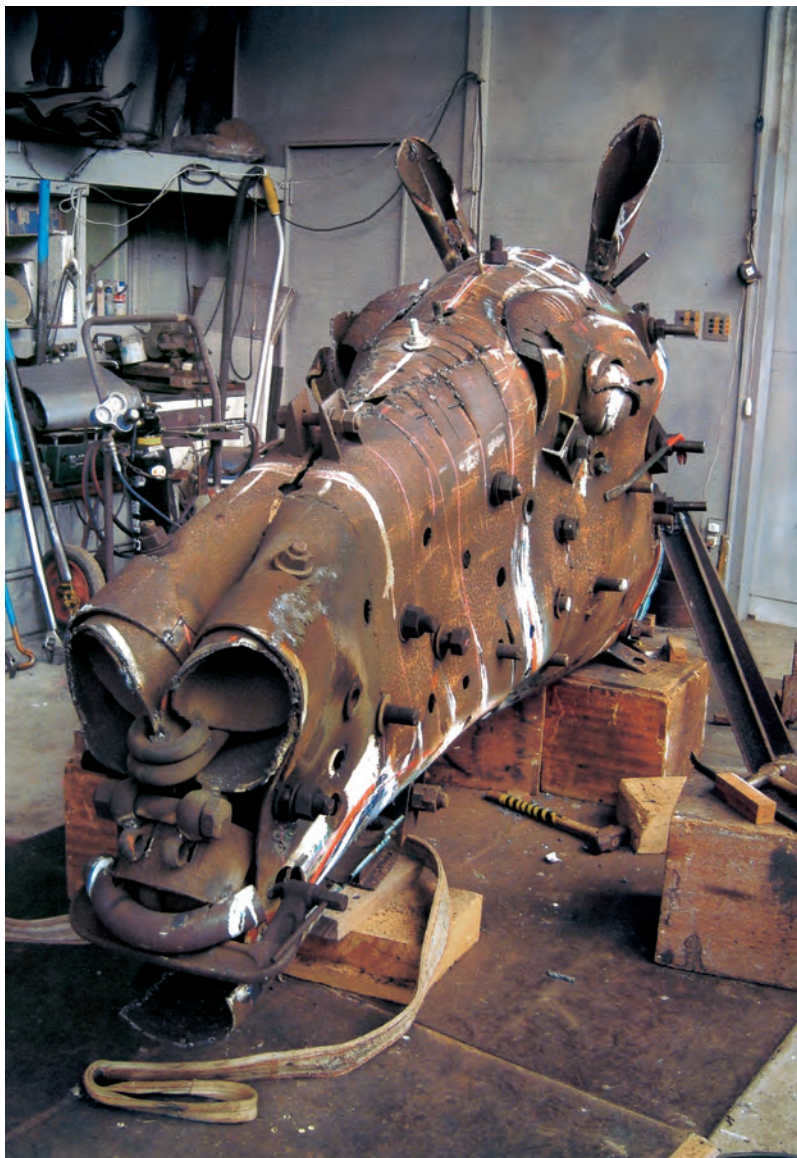
地の具 H100×W210×D120 安山岩 前田耕成



虚空 H104×W160×D58 白御影石・黒御影石・木 登坂秀雄



森で遊ぶ H179×W88×D75 黒御影石 宮澤光造



将馬Ⅱ H180×W90×D212 鉄材 小田信夫



獵犬の休日 H95×W155×D112 楠 島田紘一呂



LANDSCAPE VI H50×W300×D50 黒花崗岩 菅原二郎



追想(木花咲耶姫) H140×W50×D33 エポキシ 日高頼子



風袋 H200×W50×D50 樟 鷺崎直子



自分を信じよ H54×W123×D99 黒御影石・木材 小林亮介



Hauser - Adagioを熱奏(未完成) H146×W86×D111 コールテン鋼 綿引道郎



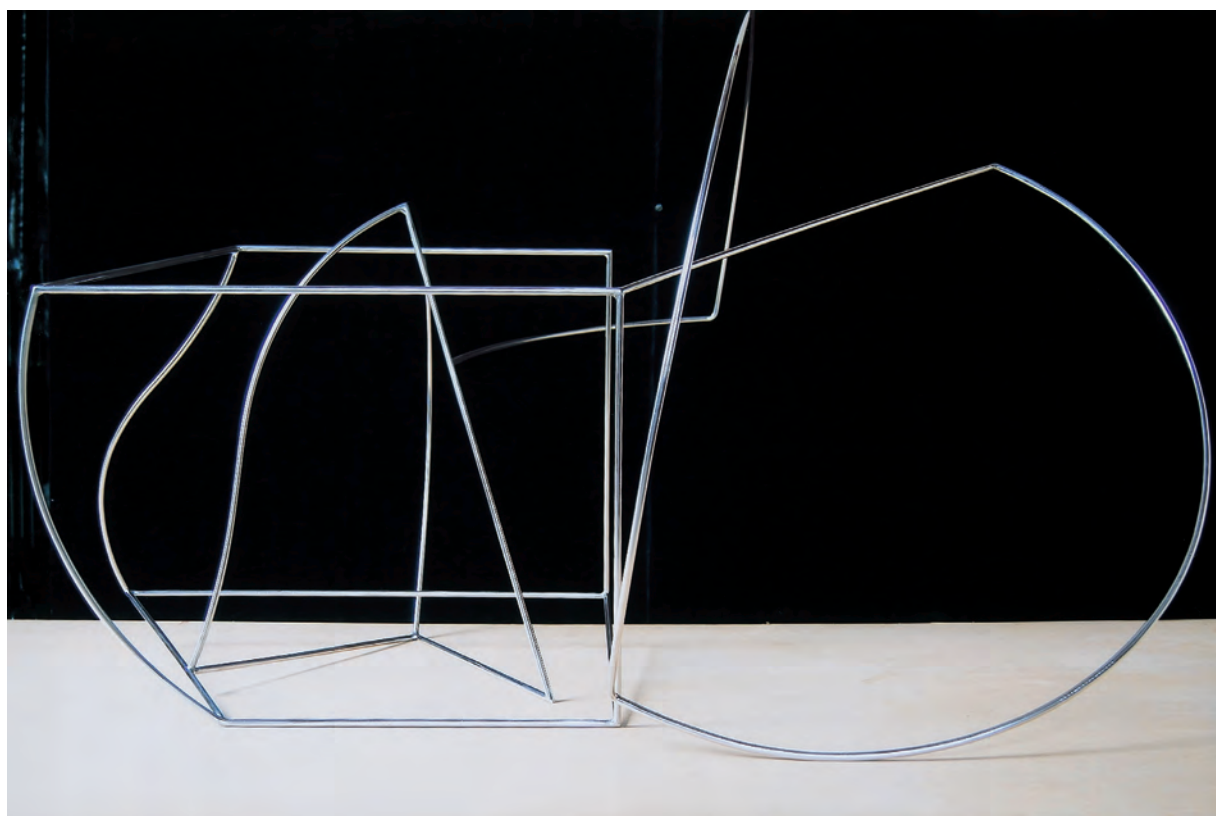
風雪に抗う H105×W60×D40 クス 藤巻秀正



光向 H176×W87×D80 石膏・布・ウール・金属 津田裕子



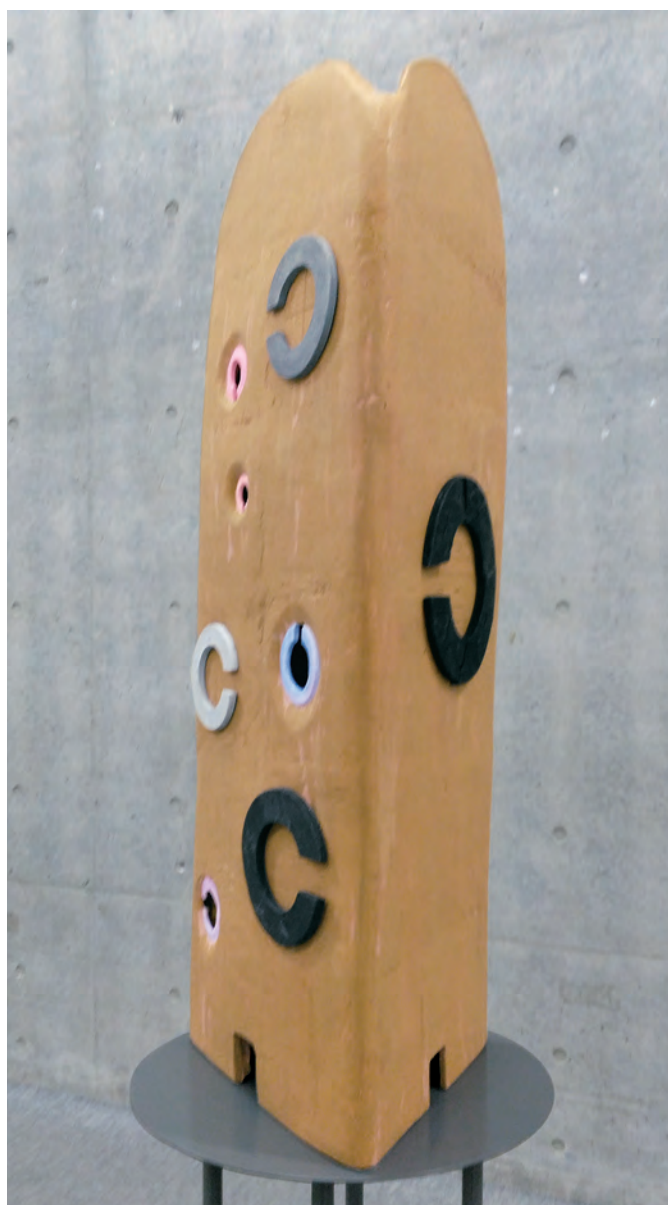
未ヲ運ブ2026 H205×W242×D60 楠・赤御影石 西村文男



可逆(ふくらみのある三角と四角そして丸) H75×W130×D85 ステンレススティール 吉田二郎



求心性と構え H73×W80×D50
FRP 西村貞雄



Windows of the heart H173×W45×D45
陶 市川明廣



ストール H60×W24×D24 FRP 幡 青果



気流 H155×W56×D33 楠 町川和司



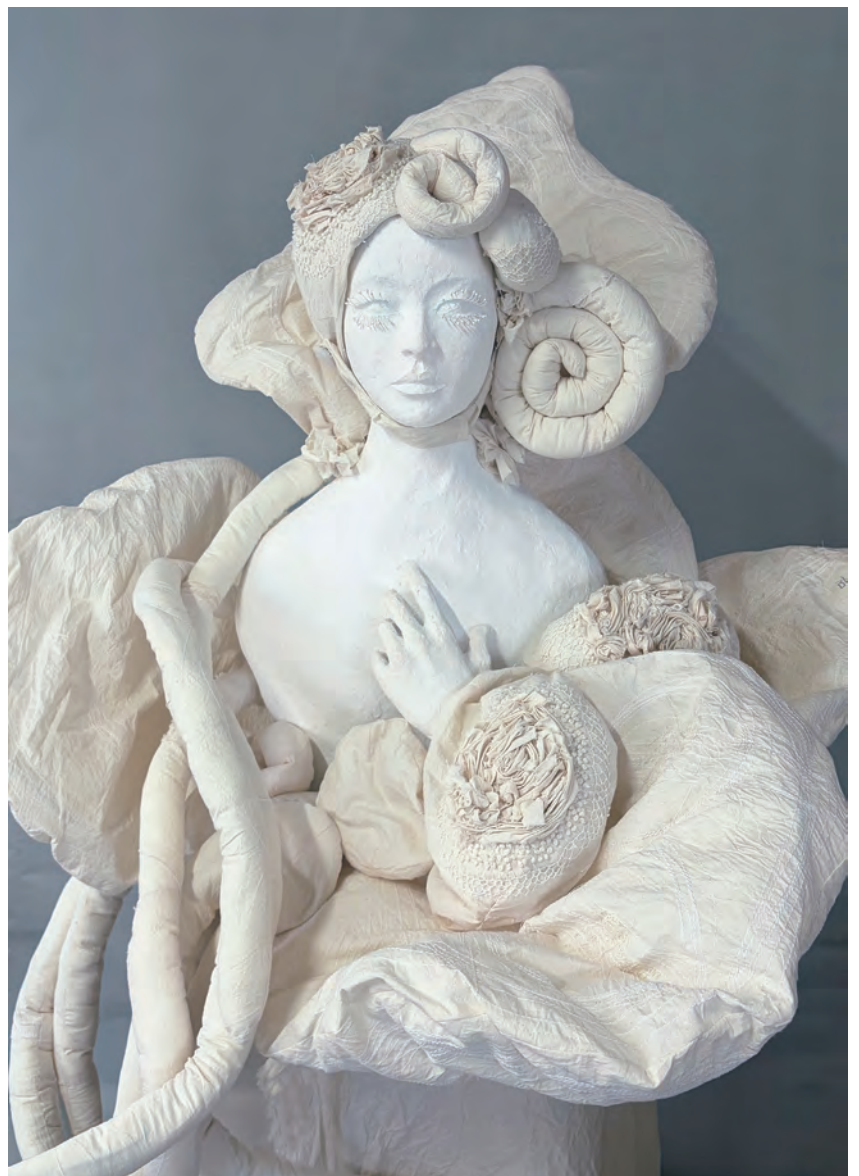
白い記憶2 H40×W90×D95
白大理石 山田将晴



野ら一座ってみてください H58×W200×D200
木(メタセコイヤ) 長谷川千賀子



睡る為の殻 H50×W50×D170 木(鬼胡桃)・ブロンズ 佐々木 至



叢—SOU H140×W80×D80 紙粘土・布 二ノ宮裕子



軸宇 planet or rotation H30×W可変×D可変 ミクストメディア 神田每実



木漏れ日 H29×W40×D30 水性樹脂・大理石 信時 茂



風を聴く H125×W85×D45 楠・ヒバ・漆 嶋崎達哉



Revelations-Crossing the river H245×W60×D60 FRP 大村富彦



堰 H57×W66×D168 石・鉄 上田 快



翼あらば H118×W100×D100 テラコッタ・鉄板 宮路久子



母子像 H140×W90×D60 石膏・紙粘土・ウレタン 廣瀬友彦



よよ H30×W30×D20 木 宮園広幸



つながり H95×W91.5×D40 石膏(一部着色)・板 日置万里



星と別れる日 H220×W50×D50 FRP 宇野 務



シリーズ木の氣 26-D H50×W90×D180 楠・柿渋・顔彩 中村淳子



風の情景 H215×W60×D60 米絵 多羅間拓也



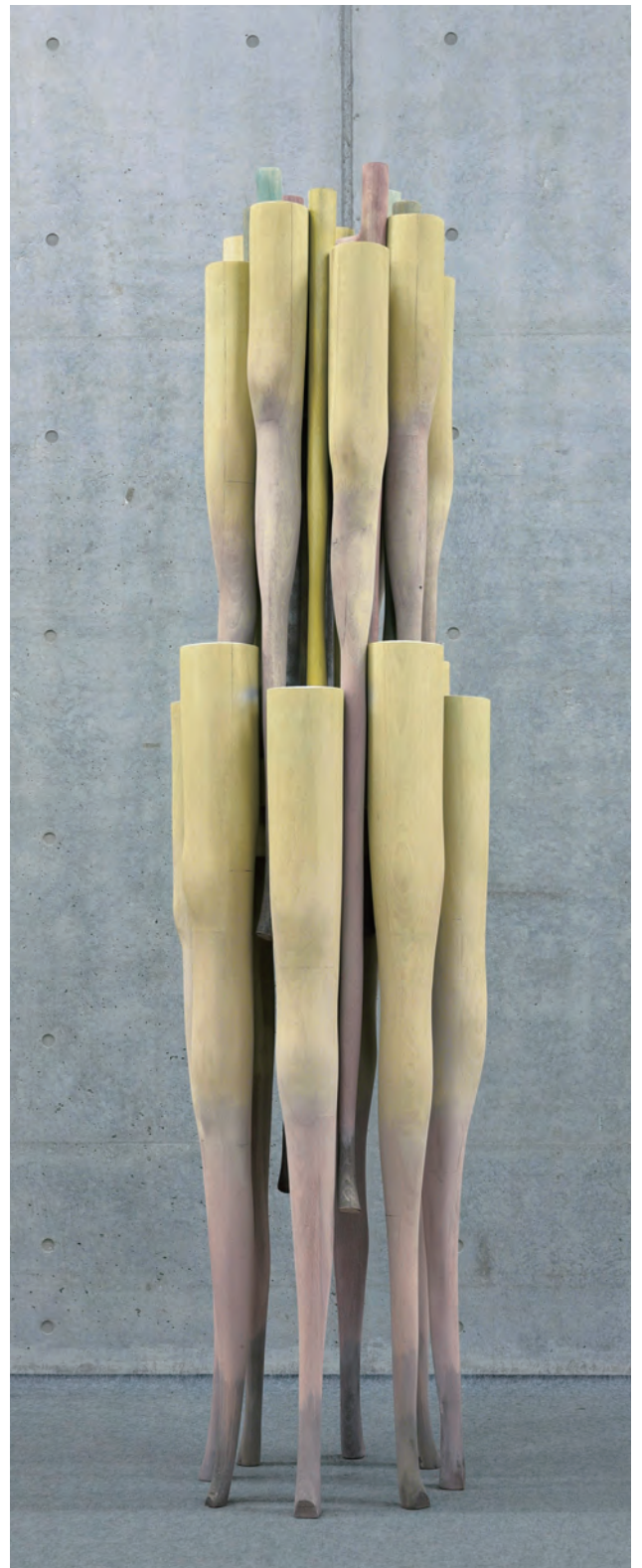
隆起 御影石 H70×W105×D50
長谷川俊廣



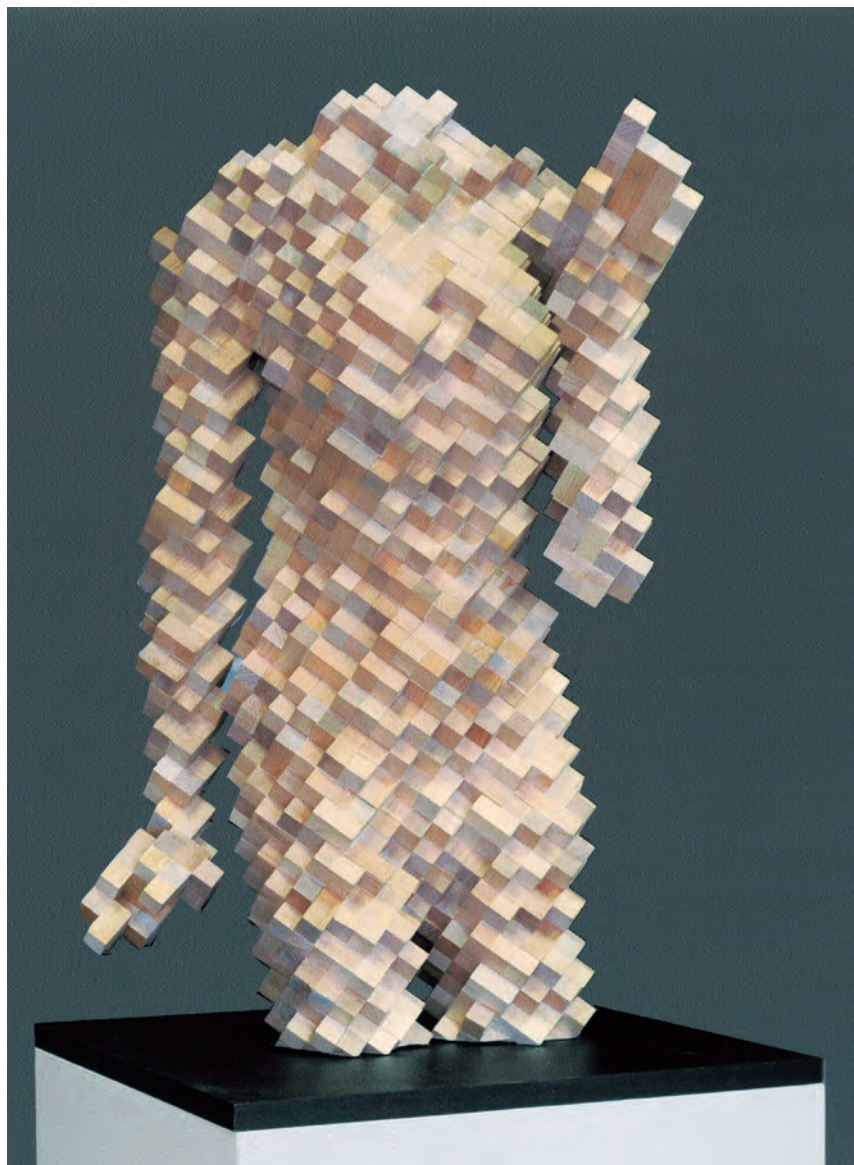
夢の街並み H49.5×W32×D23
テラコッタ 阿部昌義



tuner H208×W32×D32 鉄・木 正司 強



Eternal Emotion H240×W60×D60 樟・彩色 林 一平



残影「次、降ります」 H94×W60×D50 榎 岡村 明



幻影 H191×W46×D46 楠・ステンレス 服部多加志



透明に浮かぶ H96×W194×D65 樟 川本 拓



空はなぜ青いのか H83×W106×D60 ジェスモナイト・石膏・木 山田美智子



箱足 H36.5×W30×D30 紙・木・樹脂 千葉伸子



躍翔 H209×W290×D105 樹脂・石膏・鉄・木 本多紀朗



Cycling Moon H40×W45×D15 石・真鍮・ステンレス・アクリル板 藤沢 恵



紙の国の風 H262×W260×D57 御影石 荻野弘一



雪晴れの夜 H80×W110×D80 木(ケヤキ) 角谷豊明



記憶の大河 H180×W280×D50 学校用机天板の廃材(合板) 長谷川 聡



I Like it here. I H55×W23×D55 木(朴) 細田愛由美



翔遊 H218×W118×D110 ケヤキ 都丸洋一



緩衝域 H106×W50×D27 和紙・鉄・木 岩崎花菜子



巡るものの輪郭 H155×W90×D100 テラコッタ・木材・真鍮 丸山恵美

会友

sculpture

彫刻



FRAGMENT -male deity- H60×W100×D33 銅・錫・銀箔・木
山中洋明



いにしへの風(古の風) H255×W270×D230
銀杏 古森清五郎



雨宿り H220×W110×D90
石粉粘土・彩色・木 川口三千雄



Scene 70 meimei H120×W52×D42
ジェスモナイト・合板 仲子亜未



蛹 H90×W180×D50 金属 吉野ヨシ子



あかがねの家 H19×W23×D21 銅 井上なぎさ



nuba H50×W26×D25 木 大坪義武



なかなおりのまえ H120×W160×D45 楠
与島 雪



車が来るまでくるまって H80×W59×D55
樟・彩色 玉田真理



Quiet Flow -Beginning- H13×W30×D30 大理石 瀬戸志保



風に見る H50×W200×D60 クス 佐藤しず子



漂流物の化身 H125×W90×D125
プラスチック・木・鉄 洗川一男



アダマス(シャモ) H166×W50×D110
木 岩瀬公子



海、精Ⅲ H52×W93.5×D14.3 真鍮 保坂航子



男と女 H190×W170×D80
テラコッタ・石膏・木 梅田勝裕

二科会趣旨

二科会は永い歴史が語るように、発足以来、各部門が一貫した伝統精神として、時代を認識する徹底性において、視野を一方向に限定せず、新しい表現価値の創造に向かって不断の追究を期することが信条である。よって全会員の制作上の自由を擁護し、個性を尊重する。流派の如何を問わず新しい価値の創造者は抜擢され待遇されるであろう。

かくて、二科会を美の温床としようとする努力は不変の鉄則であり、我々の理念である。

二科会について

1889年(明治22年)に日本最初の洋風美術団体「明治美術会」が創立され、7年後の1896年(明治29年)に東京美術学校に洋画科が設置されたのが、わが国洋画壇の黎明期であり、この頃フランスに留学していた新進の芸術家が帰朝するに従って、文部省展覧会の審査に新・旧の価値観の違いが目立ってきました。そこで、新・旧を一科と二科に分離するように政府に要求しましたが、時期尚早なりと却下されました。

そのため1914年(大正3年)文展(文部省美術展)の洋画部に対して新進作家たちが新しい美術の確立を標榜して、在野の美術団体「二科会」を結成し「流派の如何にかかわらず、新しい価値を尊重し、創造者の制作上の自由を擁護し、抜擢する」という趣旨のもとに1世紀におよぶ歩みを踏み出しました。この間、二科会は常に時代の新傾向を吸収し、黎明期から多くの著名な芸術家を輩出してきました。

現在、絵画・彫刻・デザイン・写真の4部で二科美術展覧会を開催しておりますが、絵画部、彫刻部は民主的運営を目指し1979年(昭和54年)に法人化し、社団法人二科会として発足、さらに2012年(平成24年)には絵画部・彫刻部は公益社団法人二科会としての認定を受け、デザイン部・写真部も法人化の道をたどりしました。

2007年(平成19年)からは本展会場を上野の東京都美術館から六本木の国立新美術館に移し、4部門での秋の二科展として親しまれる二科美術展覧会を開催し、会員の研鑽を重ねた熟成度の高い大作を発表する場としつつ、全国から広く作品を公募し会員の鑑審査により入選した力作を展示し芸術振興に努めています。また被災地への義援活動やウクライナの子供たちの作品を特別展示するなど、芸術を通して広く社会へ貢献すべく活動しています。

二科展は、東京展に続き、各主要都市での巡回展を実施しています。

さらに、春には、上野の東京都美術館において、会員の実験的作品の発表と新進作家の育成を目指した春季展を開催し、2024年(令和6年)より特別企画として会友・一般からも自由に応募出来る「NIKA+nika/S20号」コンクールも同時開催し、より広い表現の可能性を探っています。

令和8年 —2026年—

公益社団法人 二科会